

# ウガンダの中学生と心の交流

## スカイプ使い 歌披露し合う



手を振ってウガンダの子どもたちと交流する海星学院の生徒たち

室蘭・海星学院2年生

室蘭・海星学院高校(堺俊光校長、237人)の2年生12人が8日、東アフリカのウガンダ共和国の中学生とインターネット電話サービス、スカイプを使った

テレビ電話で交流した。互いに歌を披露し合い、親睦を深めていた。

この日、ウガンダからは60人がテレビ電話に参加。日本から数回呼び出して接続。スクリーンにウガンダの映像が映ると、「ハロー」と手を振って答えた。

途中、接続が何度も途切れながらも何とか通話を続けた。海星学院の生徒は「ハッピークリスマス」、ウガンダの子どもたちは「チープ・スリル」などを発表。互いに笑顔を見せ、国境を超えた友情を育んでいた。

有益由華さん(17)は「遠い国の子どもたちとスカイプを使って話しができて楽しかった」と貴重な体験を満喫していた。

壁画作りを通して、相互理解を深め合うジャパンアートマイル主催の国際交流壁画共同制作プロジェクトの一環。縦1・5メートル、横3・5メートルの絵を共同で描く。9日に再度、スカイプでミーティングを行い、絵画のテーマを決定する。

(池田勇人)